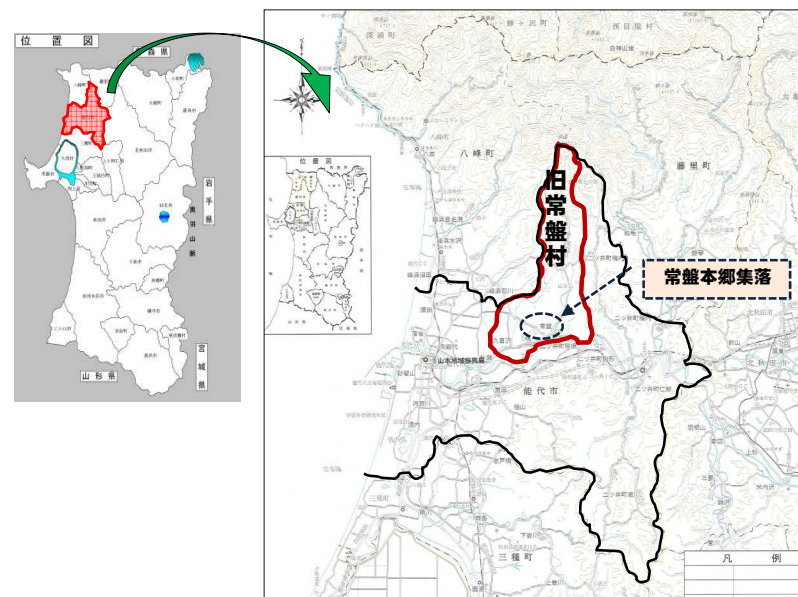


ほ場整備と園芸メガ団地

農事組合法人 能代グリーンファーム常盤 代表理事
ニツ井白神土地改良区 理事長 幸坂 登

1

① 能代市常盤地区の位置



2

② 常盤本郷地区と園芸メガ団地



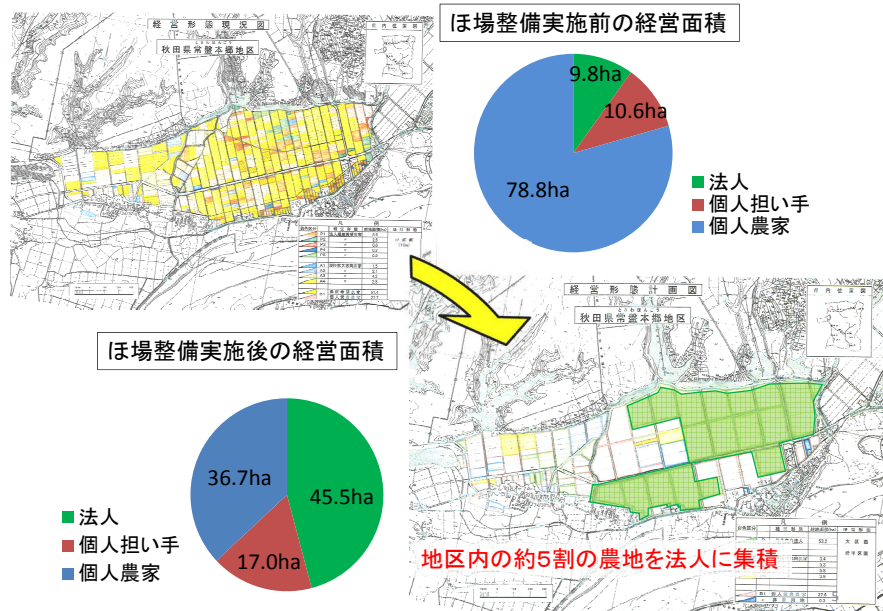
3

③ 県営ほ場整備事業「常盤本郷地区」の概要

工期	H19年～H25年
受益面積	99.2ha
総事業費	1,140百万円
10aあたり事業費	1,149千円
受益戸数	146戸
作付面積	水稻60.4ha 大豆32.7ha ネギ 6.1ha

4

④ 常盤本郷地区の集積計画

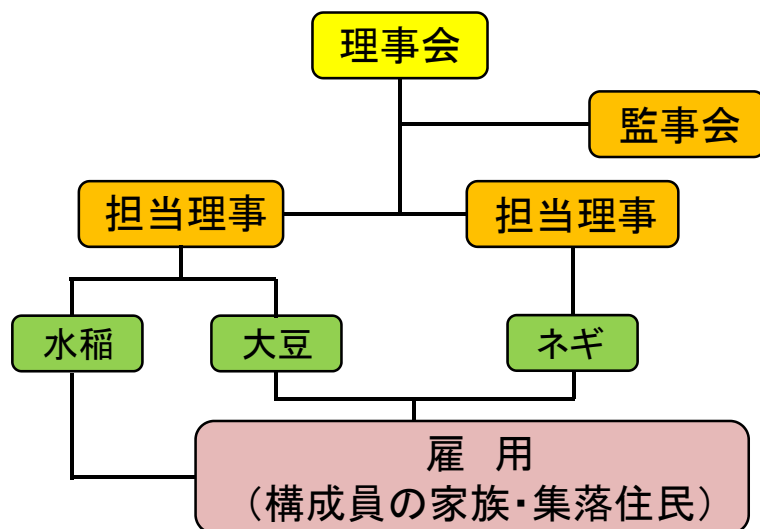


⑤ (農) 能代グリーンファーム常盤の概要



- 代表理事 幸坂 登
- 設立時期 平成20年1月16日
- 組合員 5戸5名
- 役員 理事3名、監事2名
- 経営面積 (H28) 68.0ha
 - 水稲：38.0ha (直播11ha 酒米5ha)
 - 大豆：25.0ha
 - ネギ：5.0ha

⑥ 法人の組織図



⑦ ほ場整備地区内での営農方針

○徹底した低コスト営農

水稲

	平成17年	平成27年
生産費(万円/10a)	26.0	10.0
作業時間(時間/10a)	31.2	19.3

法人の生産費と作業時間の比較

□カルパーコーティングによる湛水直播(H21年から導入)

□農業試験場にほ場を提供し、

- ・ヘリによる直播(H26年から)
- ・代掻きと同時に播種(H27年から)
- ・密苗の導入(H28年から)

など常に新しい技術を追求

⑧ ほ場整備地区内での営農方針

○徹底した低コスト営農

大豆

	単収	生産費
当法人(H27)	180kg/10a	1.9万円/10a
能代市(H27)	159kg/10a	-
統計値(東北、H26)	-	5.0万円/10a

単収と生産費の比較

□3年1期(水稻→水稻→大豆)のブロックローテーション

➡ 除草や肥料の軽減

□畝幅を狭く、耕起と同時に播種することで収量増

9

⑨ ほ場整備地区内での営農方針

○高収益作物としてネギを導入

□転作の交付金に頼った経営体質からの脱却

□周辺に大規模ネギ取組者が多く、栽培技術の早期習得が可能

□販売ロットのあるJAを通じ、

「白神ねぎ」として安定販売ができる

法人設立と同時にネギ栽培を開始

さらに、近傍地域にネギの園芸メガ団地が整備

⑩ ほ場整備地区内での営農方針

ほ場整備地区内

↓
土地利用型作物の
徹底した低コスト化

園芸メガ団地内

↓
高収益作物「ねぎ」の
生産拡大



直播播種作業



⑪ 園芸メガ団地とは

○1団地あたり販売額1億円以上を目指す

○大規模な園芸経営に取り組む担い手を育成する

○省力化・低コスト化の推進による生産性の飛躍的向上と大規模な雇用を創出

平成26年度着手	平成27年度着手	平成28年度着手
・能代市轟地区 ～ねぎ周年化の整備～ ・男鹿・潟上地区 ～若手による キク産地の拡大～ ・中仙中央地区 ～大規模トマト団地の 整備～	・雄和地区 ～ダリアを核とした 園芸団地の整備～ ・鳥海平根地区 ～住民の力を結集した 産地づくり～ ・中三地区 ～若い力でキクの トップ産地づくり～ ・十文字地区 ～目指せ第二の 十五野地区～	・長木地区 ～大規模枝豆産地の 育成～



中仙中央地区

12

⑫能代市轟地区 園芸メガ団地の概要

■事業実施主体 あきた白神農業協同組合

■営農主体 JAあきた白神園芸メガ団地連絡協議会

- 農事組合法人 轟ネオファーム（作付面積3.5ha）
- 農事組合法人 能代グリーンファーム常盤（作付面積4.0ha）
- 認定農業者 2人（作付面積2.5ha、3.0ha）

■H27年実績

育苗棟 12棟
路地 11.5ha
出荷量 352.6t
販売金額 109,565千円

H26メガ団地着手地区で
唯一1億円を達成！

13

⑬ 多様な作型と加工業務用ネギの導入



【加工業務用ネギの特徴】
□結束テープによる結束は不要。全てバラ出荷。
□市場向けというA品B品が混在していてもOK。
（※B品：調整後、葉数が足りない等、A品よりも品質が劣るもの）
□契約出荷であるため、基本的に価格は一定。



- ネギの周年栽培に向かうため、ネギの早どり作型の導入
- 加工業務用ネギ（段ボールバラ出荷）の取組
- 地域の雇用の場を創出
- 取組初年度でメガ団地での販売額1億円突破（2法人2個人）

⑭ネギの生産数向上へ向けた取組

○セル成型苗

- ・セル成型苗の導入
- ・高温・多照の影響を受け、新たに遮光資材を活用



セル成型育苗技術の検討

○地下かんがいシステム

- ・ねぎの生育に合わせた活用方法の確立に向け、農業試験場と連携し検討を行っている。



地下かんがいの活用について検討

15

⑮園芸メガ団地の成果



①⑥ 地域の波及効果

○直播栽培の取組拡大

・直播栽培への取り組みは、地域でも注目されている。山本管内では、大規模直播栽培のモデル経営体となっている。



直播現地研修会

○隣接集落でも法人化へ

・隣接する轟集落でも法人化を選択。H24からほ場整備事業が始まり、地域の母体法人として経営の安定化をめざしている。



(農)轟ネオファームの検討会

17

①⑦ 就農支援（研修）



研修生 久保井優司さん

横浜育ちの久保井さんは、バス会社勤務を経て、地に足をつけて働ける農業に強い関心を抱き、妻の故郷である能代市に移住してきた。平成26年4月より同法人で研修しており、平成28年4月より独立している。



従業員 渡辺宏幸さん

法人の役員である渡辺博氏の親類にあたる宏幸さんは、首都圏からのUターン者。現在は同法人の従業員である傍ら、冬期間だけ法人と取引のある地元の酒蔵で働いており、ゆくゆくは常盤本郷集落の農地を守る後継者の1人である。

18

①⑧ 今後の課題



冬期間の作業は種まきと育苗のみ



ハウス栽培(2月撮影)
給水不足により生育不良

19

- 冬期間の雇用を確保するため、ハウス栽培によるねぎの収穫を検討
- 今冬は、給水不足により収穫までには至らなかったが、今後も検討を重ねていく

①⑨ 将来構想

- 常盤本郷地区を中心に更に農地を集積
- 就農支援の輪を拡げ、近隣法人と連携した事業の拡大
- ネギに加え、ミョウガなどの野菜を拡大
- 大型冷蔵庫を新規導入
米を保管し、出荷時期をずらして販売

20

②⑩最近のできごと

○平成28年度東北農政局土地改良事業地区 営農推進功労者表彰受賞

- ・東北管内で受賞したのは2法人のみ
- ・低コスト化、高収益作物の導入・収益の向上が高く評価

